TSUMUGI通信　VOL.62

2025年５月１日

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薗町長屋１９６３

㈱ｴﾎﾞﾘｭｰｼｮﾝ内（☎0596-63-5080　FAX0696-65-7006）

E-mail　info@3c-mie.net　　https://3c-mie.net/

５月、皐月（さつき）の由来は、早苗月（田植えをする月）から、あるいは古語で稲を植えることを「さ」と呼び田植えの月ということから来ているなど諸説あります。いずれにせよ、これから大きく育っていく大地の恵みのスタートの季節です。
私たちの周囲でも、社会で実っていく前の学生のみなさんが地域でさまざまな取り組みで活躍している姿があります。
先月は、当ネットワークの交流会でそうした活動を学生のみなさんに発表いただき、会員や社団にご縁のあるみなさんとの懇談会が行われました。 今回は、その概要をお伝えします。

社団交流会「**学生＆社会人 懇話会**」が開催されました

「尾鷲市三木里フィールドワーク」
～地域と出会い、学び、動いた半年間～
三重大学工学部2年加納由唯さん

当日は 50 名の参加
うち 20 名が学生の
みなさんでした

加納さんからは、県が主催の地域課題解決型フィールドに参加した体験をお話しいただきました。
地元からは一過性のイベントはいらないとの現実を聞かされつつも地域の人々のあたたかさや現地で触れ合うことの大切さを実感した報告でありました。

「命を救うために」
鈴鹿医療科学大学救急救命学科
4年橋本 樹さん、2年矢倉美空さん、4年川村怜央さん

鈴鹿医療科学大学のみなさんからは、救急救命に関する3つの活動を紹介いただきました。
橋本さんからは、「鈴鹿市学生消防団」が昨年4月に活動を開始し、救急法の普及を行っているお話しです。

矢倉さんからは、応急手当普及を目指してスタートした学生サークル「鈴鹿P-BET」のお話です。
当初は保育施設での救急法の普及を考え始めたとのことですが、もっと活動の対象を広げようとしています。
しかし、課題もあるようで、機材を運ぶ移動の手段などを考えると限られたエリアになってしまいます。
川村さんからは、昨年11月に愛知教育大学と連携して行った「今日から君もこども救命士！」の紹介です。
「命」を救うための教育に対して意見交換を行いながらプログラムを作り上げた経験を通して、得た救命教育の重要性を学んだことのお話です。

「白山町上ノ村での活動」
三重大学　地域貢献サークル Meiku
生物資源学部大学院生 笹部亮介さん

約7反の耕作放棄地で稲作や畑作、果樹の栽培を行っています。畑はサツマイモやナス。またゴマ栽培も手がけています。 場所柄、獣害も多く狩猟もやります。 これらみんな、地域のみなさんのサポートがあってのことです。

笹部さんからは、「地域貢献サークルMeiku」の紹介です。
このサークルは耕作放棄地の活用をしようと学生たちが農業に取り組んでいます。 場所は、青山高原の麓にある中山間地域です。

「芋を追ってたら、農福と出会った。」
三重大学公認サークル「ノウフク！」
生物資源学部 中村玲央さん、森田太陽さん

中村さん、森田さんからは、農福連携のお話し。
きっかけは、学際イベントのために芋を探していたところ、農業経営を行う福祉施設に出会ったこと。
当初は、障がい者の方のために何かしてあげたいと思っていたが、今では障がい者の方から学ぶことが多いとのこと。現在、三重県障がい者就農促進協議会の農福マルシェのお手伝いをしています。 企画・調達・販売まで学生だけで実施しているのは自分達のみとか。

「玉城町“タマキ・マナビ倉庫”の活動

三重大学工学部建築学科近藤研究室
工学部大学院生 折田孝斗さん

折田さんからの活動報告。

三重大学近藤研究では、学生主体で玉城町にある瓦工場だった空き倉庫を拠点に「タマキ・マナビ倉庫」と名付け、倉庫の活用方法の検討と、ステークホルダーを作ることを目標に活動しています。
今年度は「タマキ地域図書室」の開設を目指して町と協力しながら倉庫の改修を始めました。
「学ぶために集う場～瓦屋根の下で玉城町でしか得られない“マナビ”を体験する～」をコンセプトに住民のみなさんと共に様々なイベントを行う予定です。
主旨に賛同いただける多くのみなさんからのご連絡をお待ちしています。

Email：tamakimanabisouko@gmail.com

ソーシャール・ビジネス・プロジェクト活動

皇學館大学 SBP 研究部
教育学部 森川堅心さん

森川さんからは、地域課題をビジネスの手法で解決する SBP 研究部の紹介です。
SBP は、高校生が地域資源（ひと、モノ、自然、歴史、名所旧跡、産業等）とかかわり、見直し、活用して「まちづくり」や「ビジネス」を提案していくもので、その取り組みを応援して支えて行こうというものです。

これまでには、南伊勢町に提案した町のキャラクターである「たいみー」をかたどった「たい焼き」の出店販売やプロジェクションマッピングなどを行いました。

卒業記念に本を制作

三重大学医学部（今年春卒業）
現在研修医 坂口銀河さん

坂口さんは、この春に三重大学医学部を卒業しましたが、在学中に執筆した図書を紹介されました。
津市内の会社でベトナム人に日本語を教えるアルバイトをしていた時にバイト先の社長から「学生のうちに形に残るものを作ろう」と提案されたことがきっかけです。
タイトルは「好意追走」で、夢をかなえるために必要な学びを主題とした、これから夢を追いかける子供たちへのメッセージです。
ド田舎の母子家庭で育った私でも好きなことに向かって走り続けることで多くの出会いや支えに恵まれました。そのことを子供たちに伝えたいと思っています。

※ 機会があれば中学校などで講演活動し子供たちを応援したいとのことです。 ご興味のある方は当方までご連絡ください。

＊＊＊＊＊ 事 務 局 ふ り か え り ＊＊＊＊＊

最近は Z 世代やα世代という言葉からジェネレーションギャップの話題が出ている中、経営者のみなさんから「最近の学生年代の行動や考えを知りたい。」というお声があり、今回の企画の運びとなりました。
学生のみなさんも損得のない活動で地域に貢献している姿を知ってもらいたいというニーズもあり、パワーポイントでの資料を作っての発表を行っていただきました。 今回は、三重大学、鈴鹿医療科学大学、皇学館大学のみなさんから発表をいただきました。 鈴鹿高専からも参加いただいていましたが、発表の機会を作れなかったのが申し訳なかったです。

参加いただいた経営者をはじめ社会人参加のみなさんからも自身の紹介をいただくなど、なごやかに歓談いただき、これを機会に社会人のみなさんからの学生支援が顕在化できるといいなぁと思います。
開催にあたりご協力いただいたみなさんに感謝です。